

「避難生活質向上を」

登山家野口健さん、総社で呼び掛け

テント活用状況を報告

総社市などと連携し、熊本地震の被災地にテントを提供している登山家野口健さん

生活の質を上げていくための方策も必要」と呼び掛けた。(1面関連)

岡山市)や総社市などが展開している同市発着の「支援シャトル便」

(42) 同市環境観光大使Ⅱが29日、同市役所を訪れた。118世帯がテントを活用している現地の状況を報告。

野口さんは「車中泊」などを強いられている被災者のために、全国の有志に協力を呼び掛けながら、テントを用意。国際医療ボランティア

を使う、甚大な被害が出ている熊本県益城町ましきまちに送った。

「長期化している避難

29日は50張りを追加発送するのに合わせて、総社入りした。益城町でテント村が設けられ、現在145張りに444人が入っていることを市職員に報告。

「自治体と協力したことで被災地との調整がうまくいき、短期間で開設できた」と振り返り、「震災時にはテントや寝袋など登山装備が役に立つ。今回の取り組みを検証し、災害時の対応モデルをつくりたい」と話



テント村の状況を報告する野口さん

した。

この日はシャトル便の第4便が発発し、市が募集した市民ボランティアが初めて同行。

3人が1泊2日の日程で益城町に入り、30日に野口さんと一緒に、追加発送したテントを張る。(古川和宏)